

# 「食品ロス削減推進サポーター 活動報告会」概要報告

(3月6日 19:30 ~ 21:30 オンライン開催)

## 1 開会 食生活委員会 武士俣委員長

サポーターの皆様、1年間の活動おつかれさまでした。食生活委員会には、36名のサポーターから1333名80世帯の消費者に啓発活動を行った報告が届いております。本日の報告会では、5名のサポーターが啓発活動での工夫や努力について話していただきます。また、活動場所や方法についての体験談も共有される予定です。今日の報告会が、食品ロス削減に向けてご尽力いただいている皆様にとって有意義な会になることと思いますので、どうぞお願いいたします。

## 2 講演 田村富美さん 魅力的な講座の進め方

### ・食品ロスの講座について

他の講座より参加者が楽しんでいる様子が明らか。日常生活に密着した内容が実践的であり、参加者の満足度が高い。

### ・ニコニコになるポイント①

食べ物を捨てるタイミングや判断基準について説明。腐った食べ物の話題がショッキングで興味を引く。牛乳の保存方法と飲みきる目安についても紹介。

### ・ニコニコになるポイント②

野菜の価格高騰への対策や無駄遣いを避ける工夫を紹介。買い物の3原則を守ることを推奨。視覚的に理解しやすいスライドで重要なポイントを強調。

### ・失敗談

講座における失敗談は特に言及なし。5つのポイントが箇条書きで示されている（内容伝達、実

## 3 東北支部 松木美保さん

### ・活動紹介

SDGs マルシェ 2024 とマチノワがっこうの2つのイベントを紹介。SDGs マルシェ 2024 は仙台市で開催され、持続可能な地球のための取り組みがテーマ。マチノワがっこうは市民活動について知り、触れ、体験することを目的としている。

- ・アプリ紹介

カーボンフットプリント可視化アプリ「じぶんごとプラネット」が紹介され、山形県での研修会での体験が述べられる。

- ・今後のメッセージ

消費者に対する重要なメッセージとして、期限表示の正しい理解、自分で判断できる力の養成、ドギーバッグの活用が挙げられる。

#### 4 中部支部 浅野智恵美さん

- ・自治体の取り組み

名古屋市や江南市などの自治体が、食品ロス削減に向けた講座やイベントを積極的に開催。

- ・食品ロスに関するクイズ

消費期限と賞味期限の違いについて理解を深めるためのクイズ形式の学習を実施。

- ・企業への取り組み

アルプス技研や日本アルファなどの企業へ、社員教育を通じて、食品ロス削減講座を実施。

- ・持ち帰り対応と

デニーズなどの飲食店が持ち帰り容器を導入し、食品ロス削減に貢献している事例を紹介。

- ・具体的な取り組み

名古屋市の「なごや環境大学」での連続講座や、デニーズやセブン&アイ・ホールディングスなどの企業との連携について紹介。食品ロス削減の重要性と具体的な取り組みを紹介し、参加者に行動を促す内容。

#### 5 西日本支部 滝口隆男さん

- ・なぜ食品ロス削減推進サポーターに？

自主研で食品ロスを研究していたこと、消費者庁の資料を活用できること、自主研メンバーのレベルアップ、会員の出番を増やすこと、サポーターとNACSの知名度を上げることが理由。

- ・活動内容(1)

NACSチャンネル動画投稿、農業生産現場視察、地産地消のエコクッキング、食品ロスガイドブック内容の共有、うどん丸ごと循環ツアーに参加。

## ・活動内容(2)

出前講座用のパワーポイント作成、香川県や消費者団体にアプローチ、消費者庁依頼の対面講座開催、所属先や関係先での啓発活動。

## ・今後の活動及び課題

出前講座資料のブラッシュアップ、県市町等で講座開催の推進、会合・集会等身の回りでの啓発。課題は食ロス削減推進サポーター認知不足、官公庁の啓発予算削減及び費用対効果、サポーターとしての活動場所が少ないこと。

## 6 九州支部 野口博子さん

### ・食品ロスの現状

環境省の日本の食品ロスの発生量の推移を示した資料。農林水産省のデータも引用。

### ・賞味期限・消費期限クイズ

コンビニ弁当、タマゴ、塩に表示されている期限についてのクイズを出題。食品ロス削減の具体例、YouTube 動画作成で大根の使い切り方法を紹介。貝印株式会社の調査では、8割以上が食品ロスに対して意識があるが、過剰除去への意識は低い。野菜等の切り方 QR コードで紹介。

### ・食品ロス削減のための行動

買物前に食材をチェックし、必要な分だけ買う。食材を上手に使い切り、食べきれなかったら冷蔵庫に保存し早めに食べる。

## 7 閉会 米山常務理事

発表、おつかれさまでした。各支部からの多様な取り組みや成功事例が紹介され、参加者一人一人が真剣に食品ロスの削減に取り組んでいる姿が浮かび上がりました。

食生活委員会の武士俣委員長の挨拶は、サポーターの皆様への感謝とその活動の意義を再確認させるものでした。この挨拶からも、サポーターたちがどれほど熱心に取り組んできたかがわかります。今日の活動報告会は、各支部のサポーターたちがいかに積極的に活動しているかを再確認させるものでした。このような報告会を通じて、更なる食品ロス削減の意識が広がり、具体的な行動へと繋がっていくことを期待します。

以上